

提出日 2018年8月28日

氏名:大島碧

所属:生産技術研究所 川添研究室

学年または身分:博士課程

研修概要 Research outline

ルネサンス・マニエリスム期イタリアにおける「インテグラツィオーネ・シェニカ」のみられるヴィラのシーケンスについての現地調査を行った。事前に選定した5つのヴィラ(ヴィラ・メディチ・フィエゾレ、ヴィラ・チェティナーレ、ヴィラ・ファルネーゼ、ヴィラ・ジュリア、オルティ・ファルネジアーニ)を訪問し、今後の研究に活用するためのデータ収集(動画および写真、スケッチ、実測)を行った。これら5つのヴィラを網羅する、フィレンツェからローマへ南下するルートで研修を行った。当該ヴィラについて現地で文献の収集も行った。

研修先について About the laboratory visited

渡航直前になって研修先の教授が予期せず退任したため、今回は予定していたトリノ工科大への訪問を取りやめ、当該ヴィラへ研究者個人が直接調査に赴く運びとなった。

研修内容 What you learned

①ヴィラ・メディチ・フィエゾレ(フィレンツェ郊外)

ルネサンス期ヴィラの典型のベースとなるテラス型の庭園、空間構成の中に織り込まれた都市への眺望、他のメディチ家所有のヴィラへの相互視認の要素など、庭園部分に関しては当初の姿がほぼそのままに残されていたため、貴重なデータを得ることができた。事前に平面図で確認していた以上に、3つのレベルに分けられた庭園をパーゴラ部分のシーケンシャルな繋がりを見てとることができた。

個人所有となっているため、建物本体は、残念ながら個人所有のため内観を確認することができなかった。

②ヴィラ・チェティナーレ(シエナ郊外)

直前になり先方の都合がつかなくなったため、見学することができなかった。

③ヴィラ・ファルネーゼおよびカジノ・ファルネーゼ(カプラローラ)

都市と庭園の媒介としてのヴィラ建築という立地は、他のどのヴィラの類型にも属さない特殊例である。ヴィラの建築内部のいくつかのポイントからは都市への多次元的な接続が試みられており、単

純なシークエンスのみでは説明できない「風景の統合」の手法がみられた。今後、持ち帰った資料の読み込みを行い、分析方法を検討したい。悪天候により、同一敷地内のカジノ・ファルネーゼが閉園となってしまったため、2日間にわけて現地を訪れることとなった。

④ ヴィラ・ジュリア (ローマ郊外)

ヴィラ・ジュリアは平面と立面が相互に対応する3層の構成をとる。ルートとしては比較的シンプルな動線をとっているため、垂直移動に対応した立体的な視点(下層のニンフェウムから空を見上げる視点や、ジャルディーノ・セグレートへのアクセス)が肝要である。建物部分の2階からの視点では、庭園の全体像を見渡す眺望が設定されていると予想していたが、周囲のランドスケープへの眺望もまた非常に重要な要素として扱われていたことが分かった。これは、ヴィラ・メディチ・フィエゾレやヴィラ・ファルネーゼでみられる支配者の視線としての眺望とは全く異なる意味合いを持ちながらも、シークエンス上での人の動きや構成には共通部分も多い。これら3つの事例は、一連のシークエンス内での建築の形態・意味・風景の操作方法を比較することでより理解が深まるのではないかと考える。動画データとしては、庭園部分の立体的なルートの一部が閉鎖されていたため、残念ながら完全なデータを得ることができなかった。

⑤ オルティ・ファルネジアーニ (ローマ)

ローマのパラティーノの丘の中に一部現存する都市型のヴィラである。当初は周囲のローマ時代の廃墟を取りこみながら設計されたヴィラであったが、今日では当該ヴィラそのものが遺構となり、周囲の廃墟と一体化したような姿となっている。グロッタや鳥小屋など、特徴的な要素が残っているため幾つかの眺望やシークエンスの一部は確認することができた。

研修先で特に印象に残ったこと The most impressive thing

今回、イタリアのヴィラ建築の現地調査を行うにあたり、そのルート決めと訪問日程が非常に重要であった。ヴィラは、その性質上、都市からアクセスしづらい郊外に点在しており、また、個人所有やホテルなどとして使用されているため、訪問日時が限られている場合が多い。予め、アポイントを取り、さらに、訪問日程の限られたヴィラは長めの日程を押さえる、または第2候補としていくつか訪問地を用意するなどして急な変更に対応していたが、対応しきれない部分もあった。とはいえ、目的の5つのヴィラの内4箇所を訪れることができ、データのみならず実際に体験しなければわからない空間の特性に良く理解することができた。

貴重な資料やデータを持ち帰ることができたので、視線解析実験や空間分析に有効に利用し、自己の今後の研究の発展に努めていきたい。

イタリアのヴィラに関する現地調査

大島碧

東京大学川添研究室 博士後期課程2年

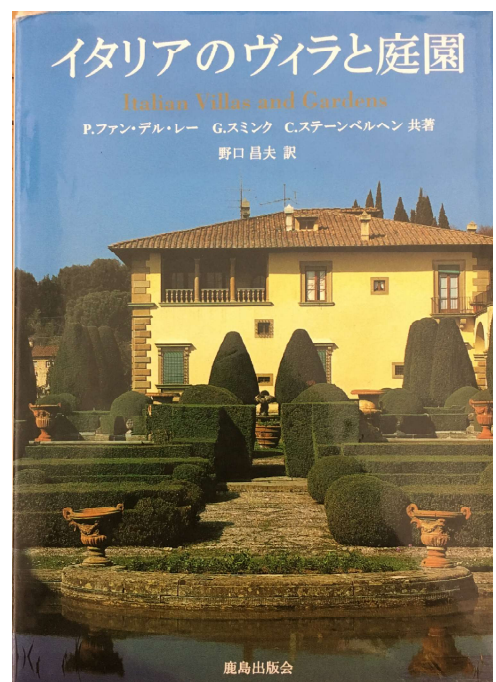
oshimami@iis.u-tokyo.ac.jp

はじめに / 調査の目的

「インテグラツィオーネ・シェニカ（風景の統合）」

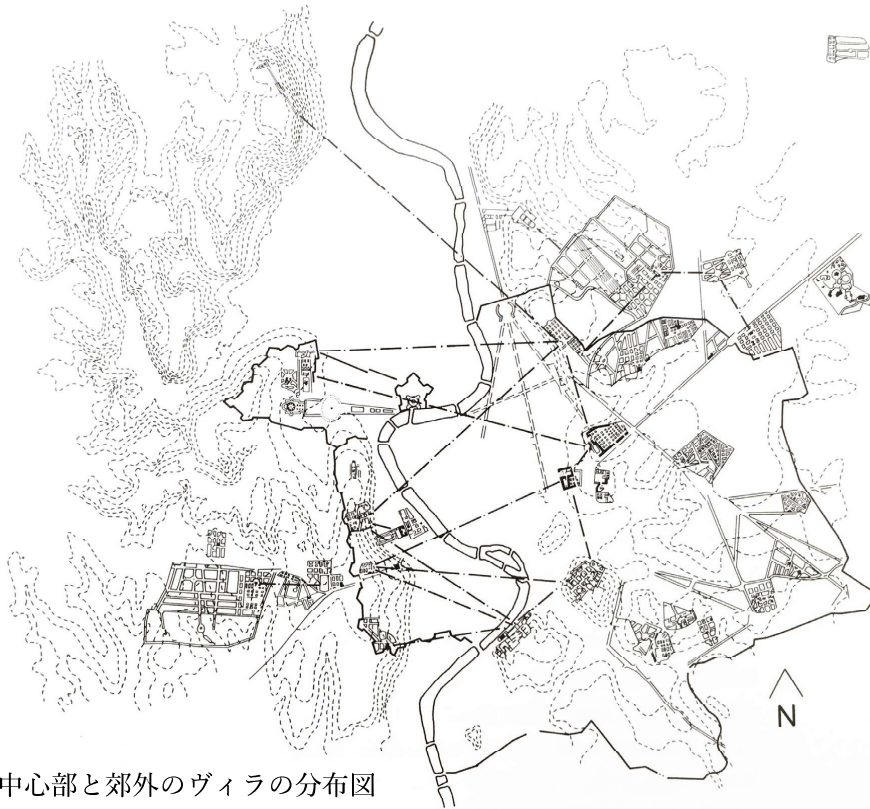
建築 / 都市 / ランドスケープのスケールを横断する設計手法

P. Van Der Ree, G. Smienk, C. Steenbergen は、都市とランドスケープと建築の相互関係の中でヴィラ建築を考察することを初めて試みた。



Italian Villas and Gardens

はじめに / 調査の目的





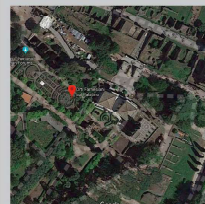
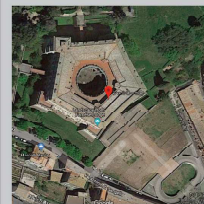
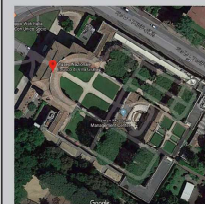
ローマ中心部と郊外のヴィラの分布図

郊外のヴィラの中の
シーケンスが都市
の中心部と接続

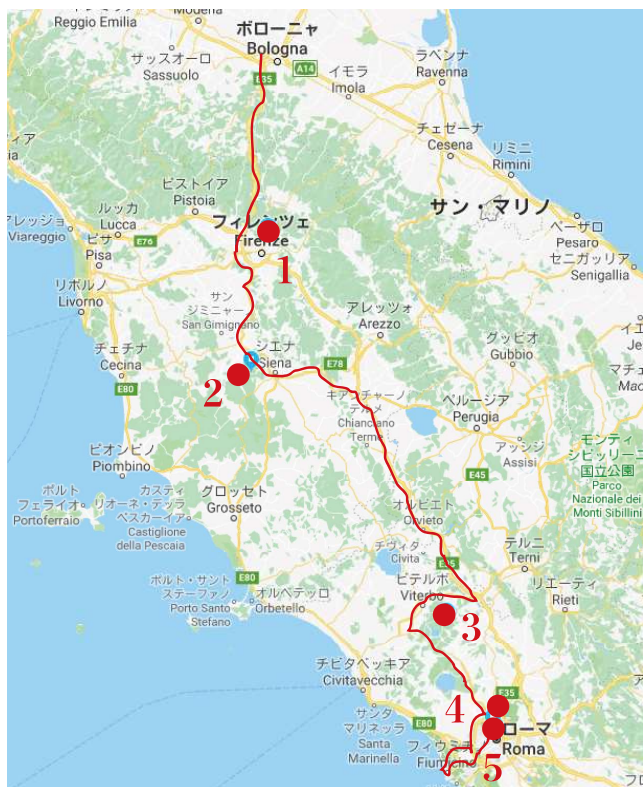


周辺地形を含んだ広
範な領域をまたいで、
ひとつの**統合型地域**
イメージを形成

調査対象

	Villa Cetinale 1680	Villa Medici e Fiesore 1458-1462	Orti Falesiani 1576	Villa Farnese 1560-1573	Villa Giulia 1550
5つのヴィラ					
シーケンスと空間の類型	分散型	テラス型	立体交差取込型	媒介取込型	グラデーション型
所在地	シエナ郊外	フィレンツェ郊外	ローマ市壁内	カブラローラ中心部	ローマ郊外
施主	フラヴィオ・キジ	コジモ・イル・ヴェッキオ メディチ家	アレッサンドロII世 ファルネーゼ家	アレッサンドロI世II世 ファルネーゼ家	ユリウスIII世
設計者	カルロ・フォンタナ	ミケロツォ・アイ・ バルトロメオ	ヴィニョーラ、ドゥカ	ヴィニョーラ	ヴァザーリ、ヴィニョーラ、 アンナマーティ
眺望	ヴィラ全景が明かされる	支配領域としての眺望	都市を眺める展望台	支配領域としての眺望 錯覚を用いたパースペクティブ	見上げの眺望

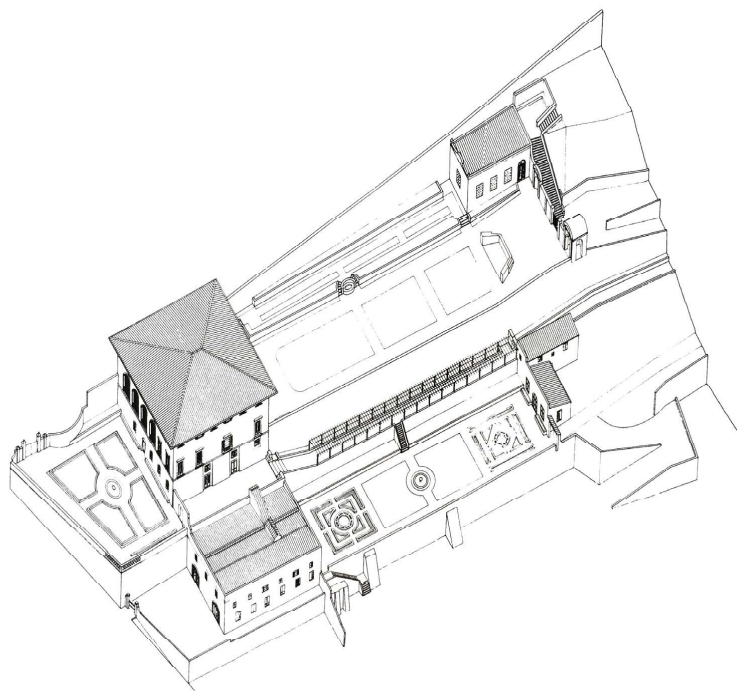
行程



- 1 ヴィラ・メデイチ・フィエゾレ
- (2 ヴィラ・チェティナーレ)
- 3 ヴィラ・ファルネーゼ
- 4 ヴィラ・ジュリア
- 5 オルティ・ファルネジアーニ

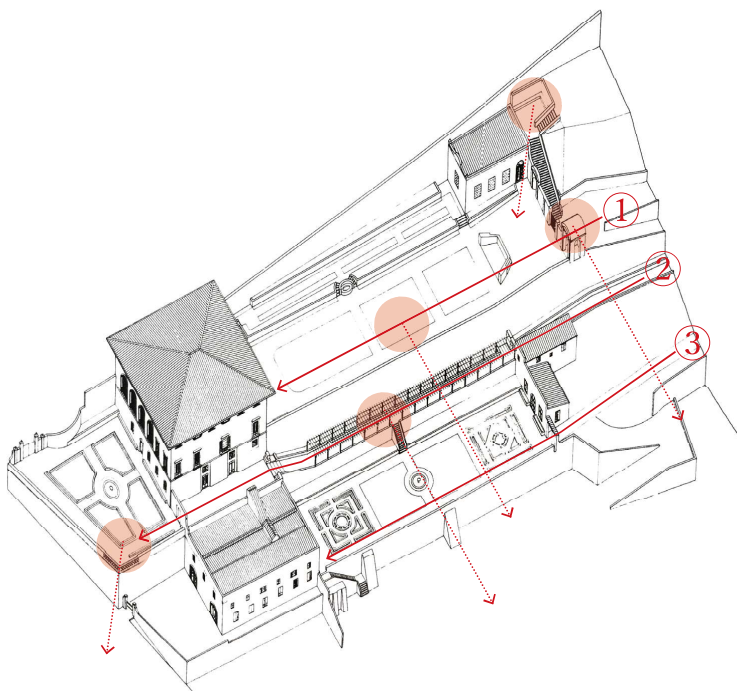
4つのヴィラの現地調査

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



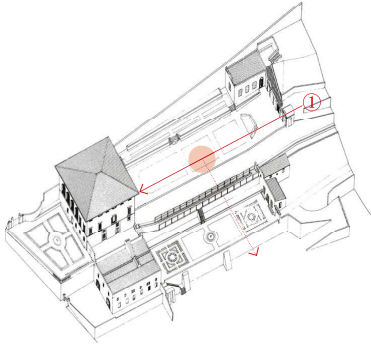
7

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



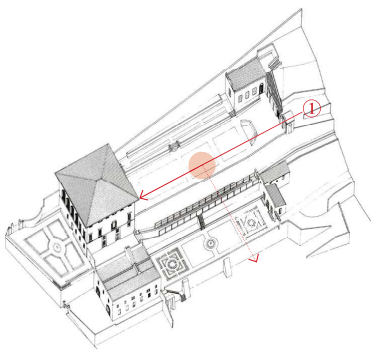
8

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



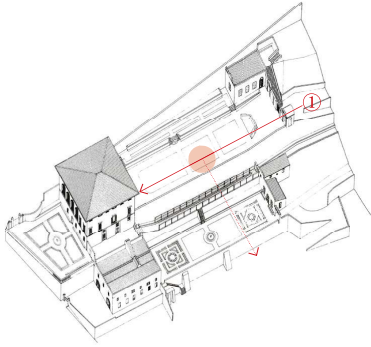
9

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



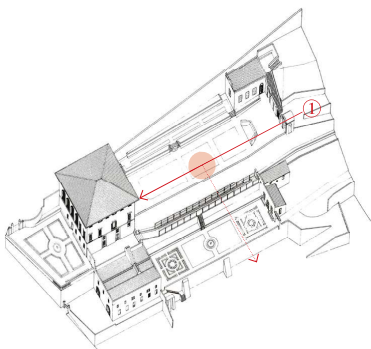
10

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



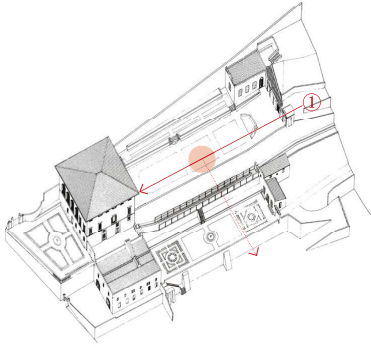
11

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



12

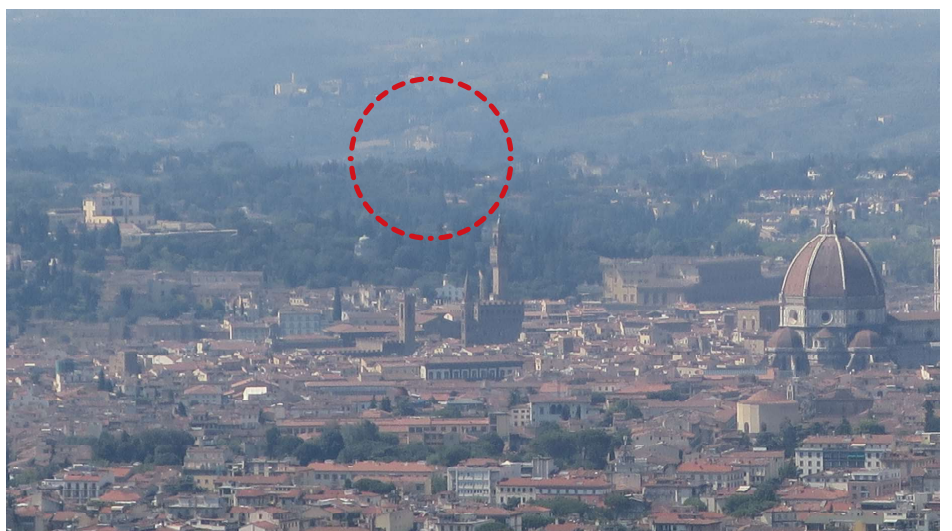
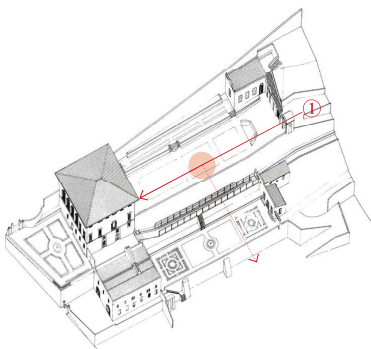
ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



13

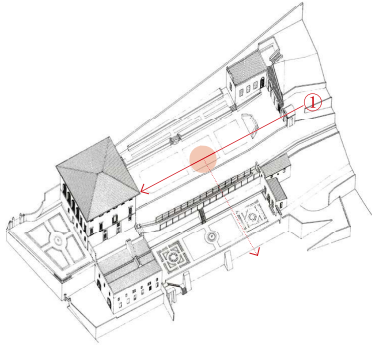
ヴィラ・メディチ・フィエゾレ

ヴィラ・ポツジョ・インペリアーレ



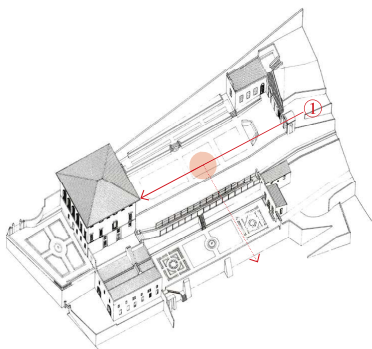
14

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



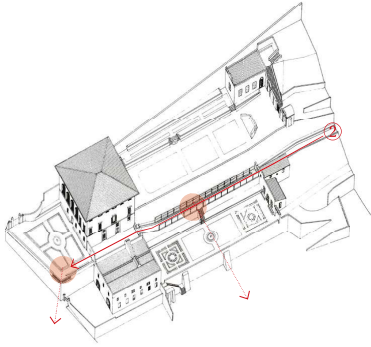
15

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



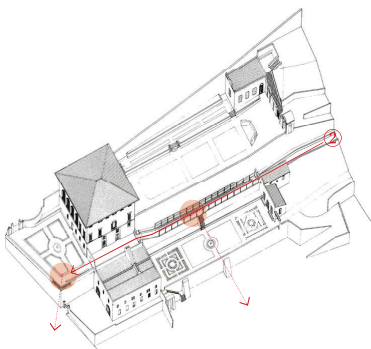
16

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



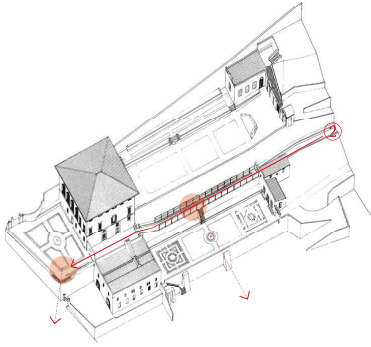
17

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



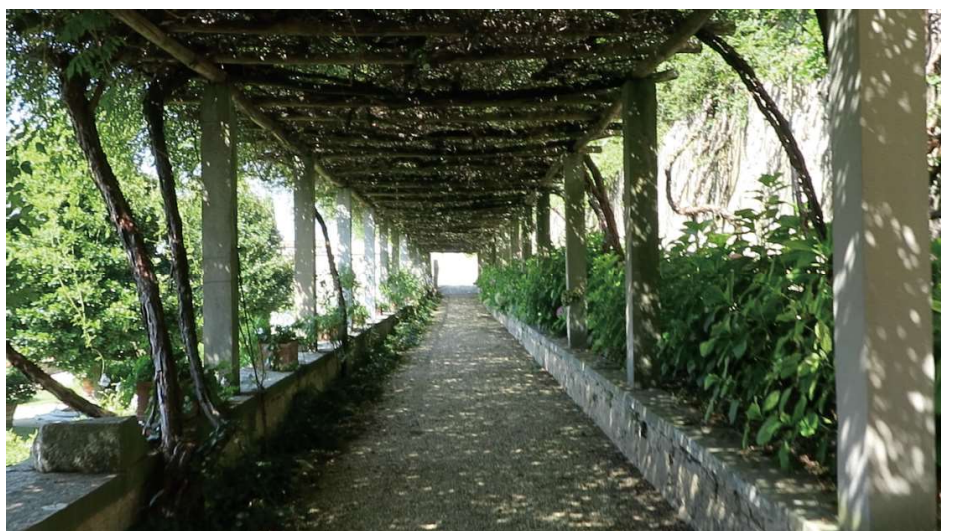
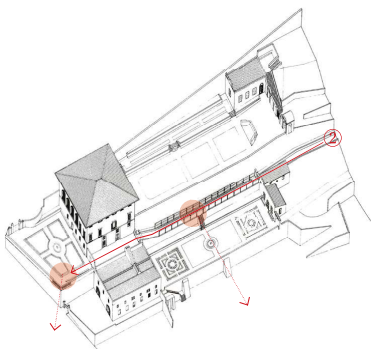
18

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



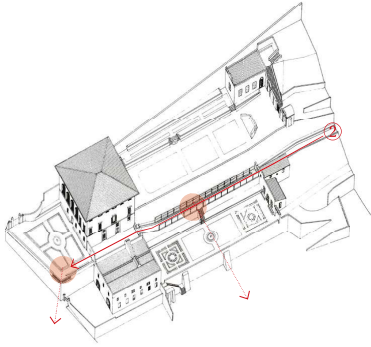
19

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



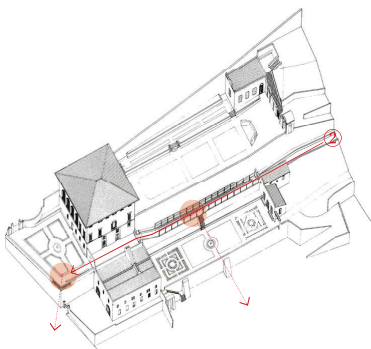
20

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



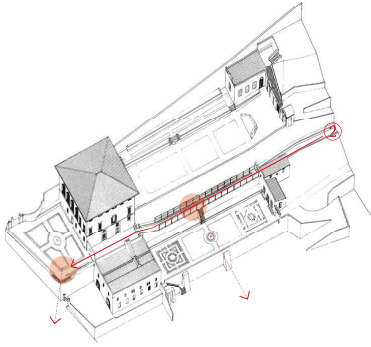
21

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



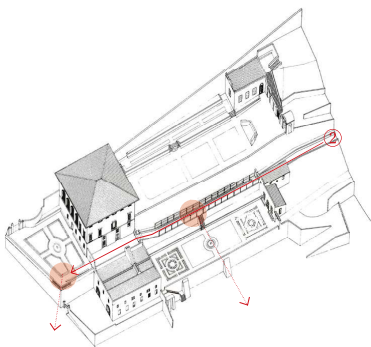
22

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



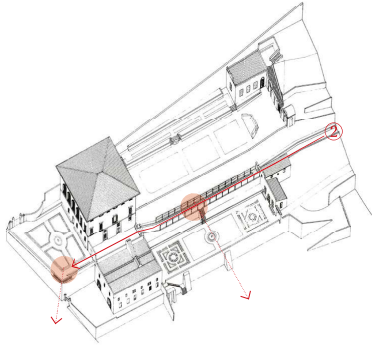
23

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



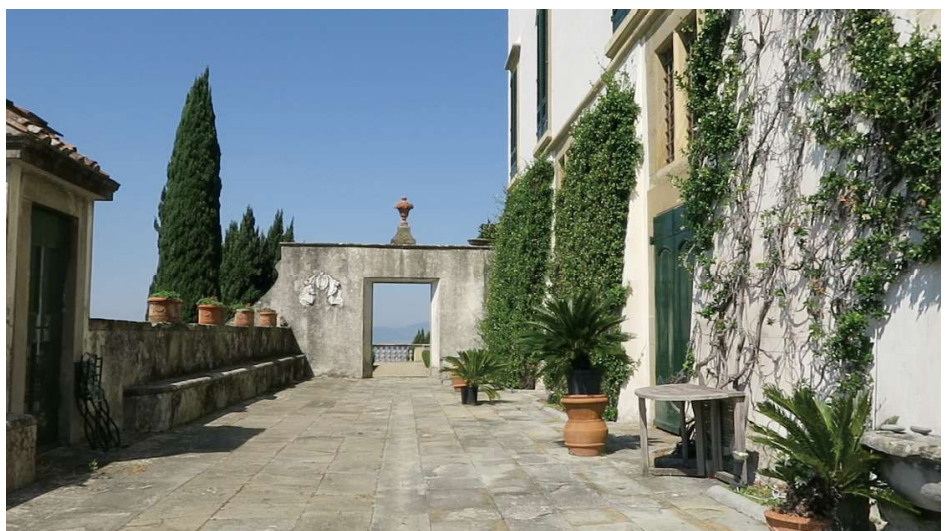
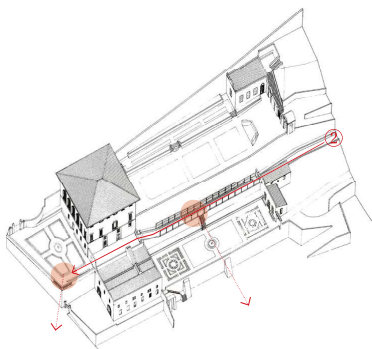
24

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



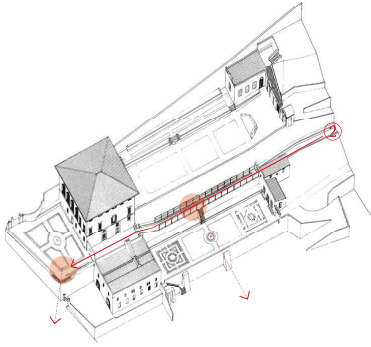
25

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



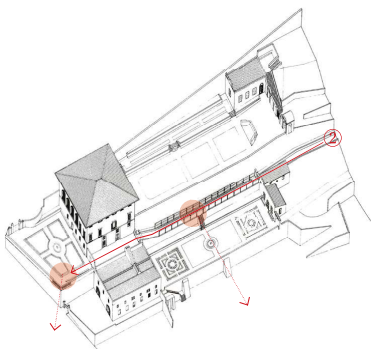
26

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



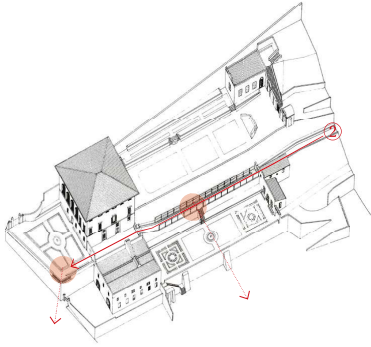
27

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



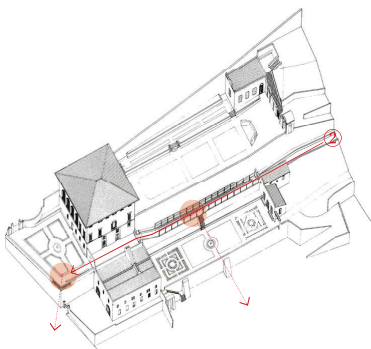
28

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



29

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ

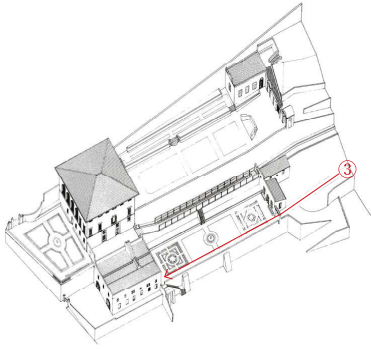


ヴィラ・ディ・マニョーレ



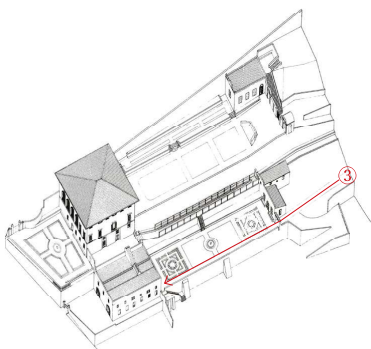
30

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ

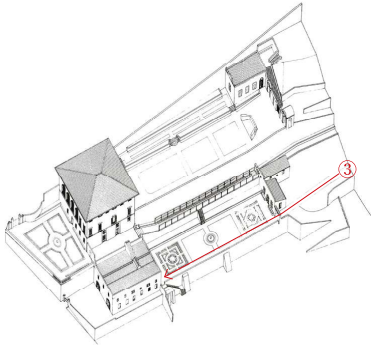


31

ヴィラ・メディチ・フィエゾレ



32

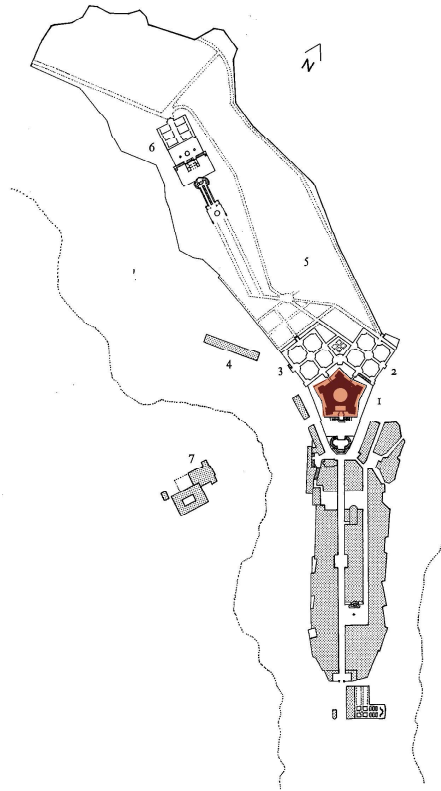


ヴィラ・メディチ・フィエゾレ

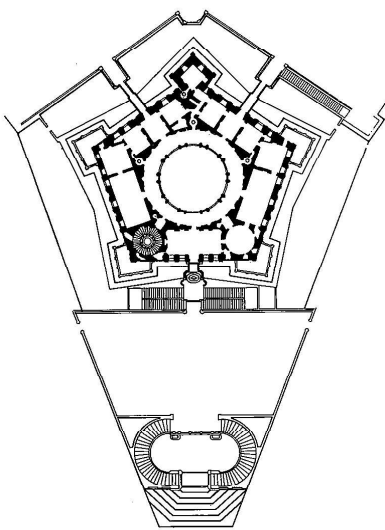
まとめ

- ・ ヴィラ建築の中に統合された4種類の眺望の内3つを確認
- ・ 3つのテラスのうち、**最も密度の高いシーケンスをもつ中段テラス**
- ・ ヒューマンスケールと都市スケールを、眺望の表現によって横断的に設計
- ・ 外部動線をあえて分断することで、内部空間と外部空間の境界を曖昧にし、逆回可能な複数の**独立したシーケンス**を形成

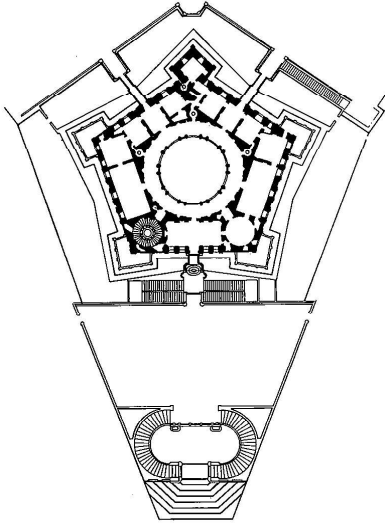
ヴィラ・ファルネーゼ



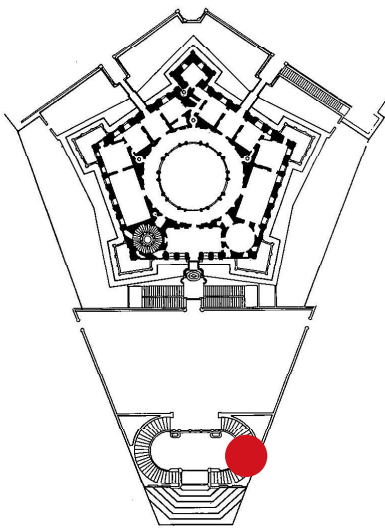
ヴィラ・ファルネーゼ



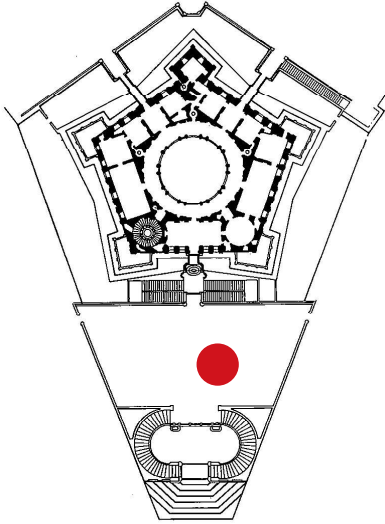
ヴィラ・ファルネーゼ



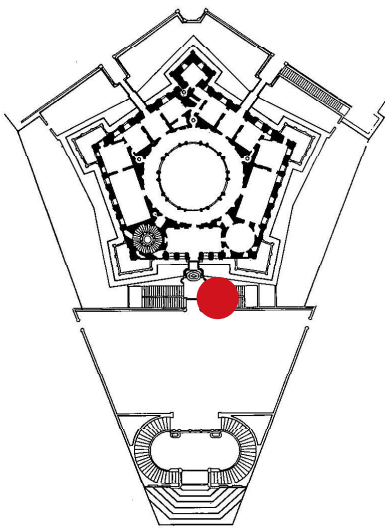
ヴィラ・ファルネーゼ



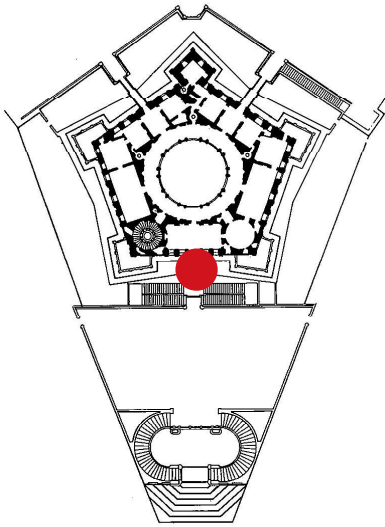
ヴィラ・ファルネーゼ



ヴィラ・ファルネーゼ

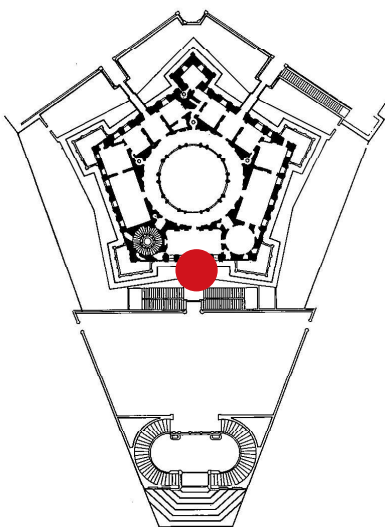


ヴィラ・ファルネーゼ



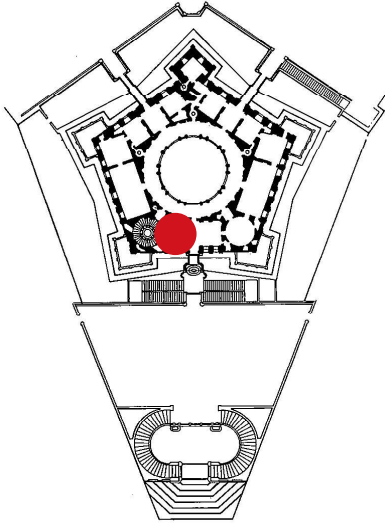
41

ヴィラ・ファルネーゼ



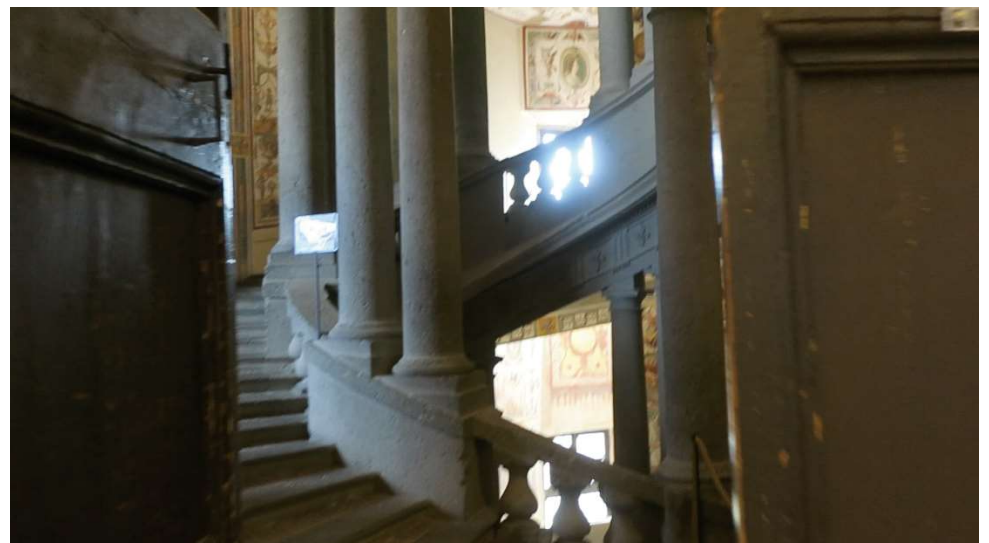
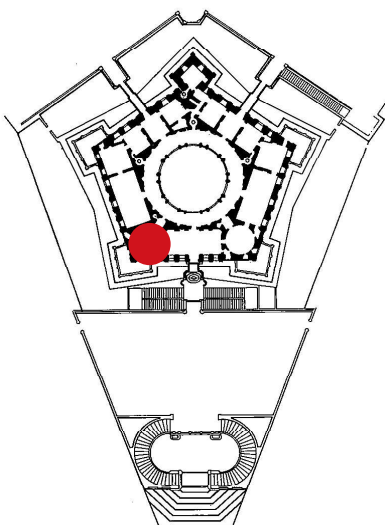
42

ヴィラ・ファルネーゼ



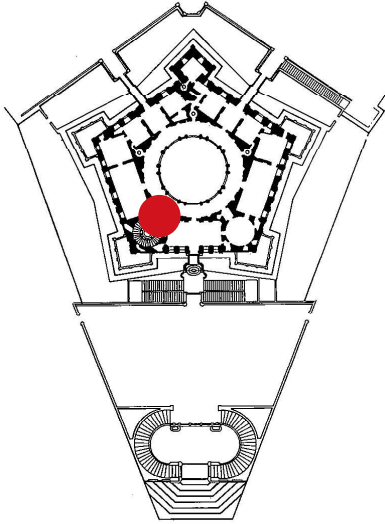
43

ヴィラ・ファルネーゼ



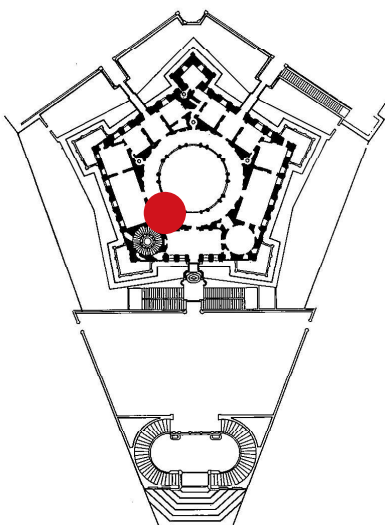
44

ヴィラ・ファルネーゼ



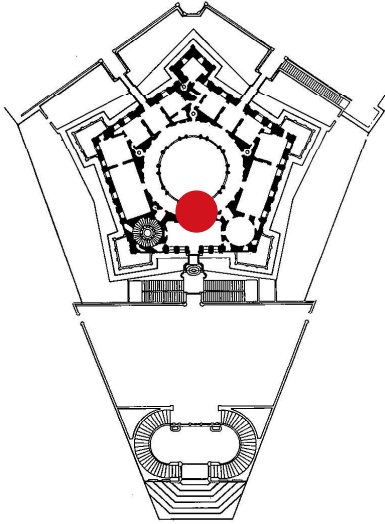
45

ヴィラ・ファルネーゼ



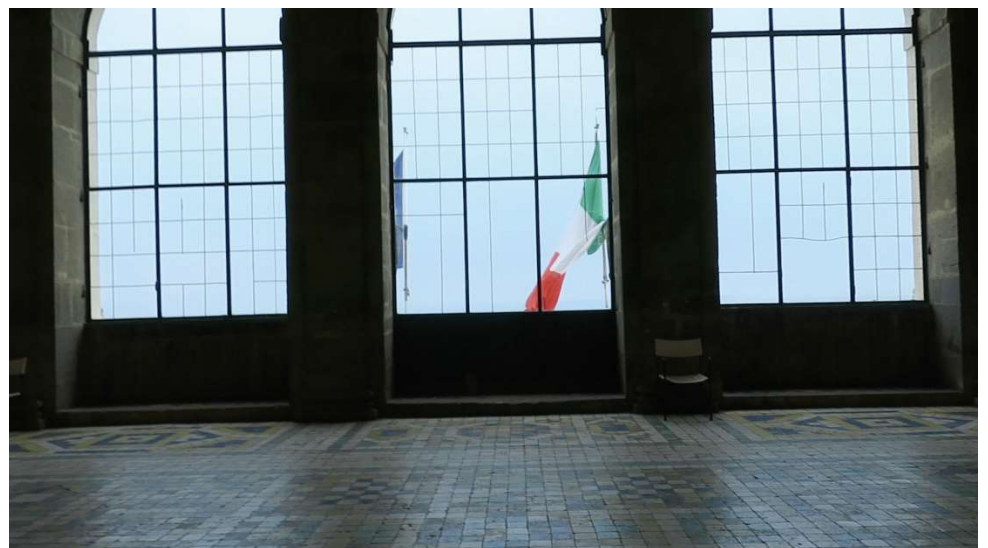
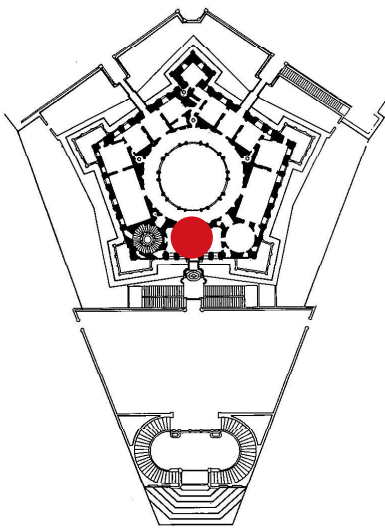
46

ヴィラ・ファルネーゼ



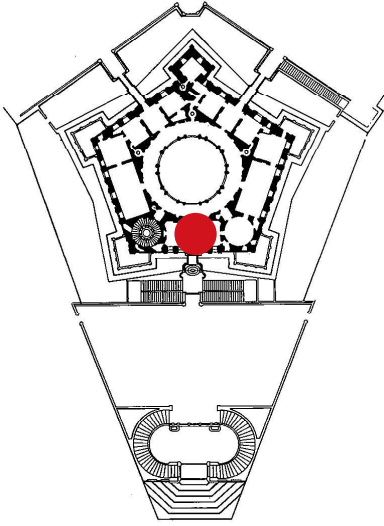
47

ヴィラ・ファルネーゼ

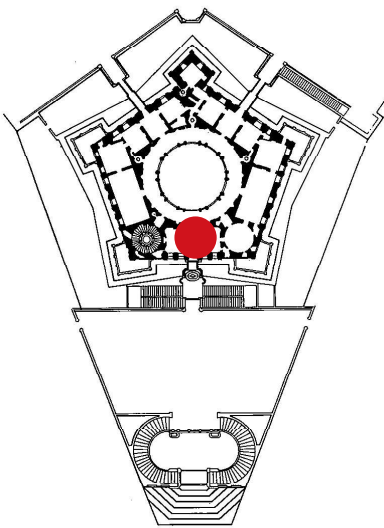


48

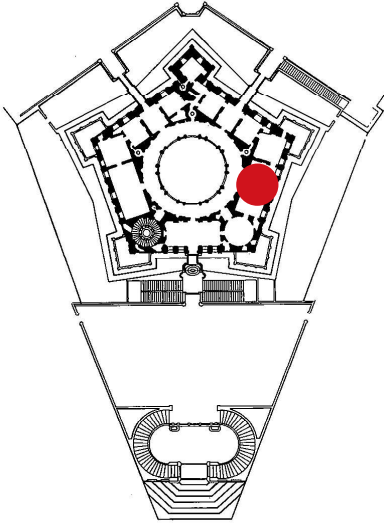
ヴィラ・ファルネーゼ



ヴィラ・ファルネーゼ

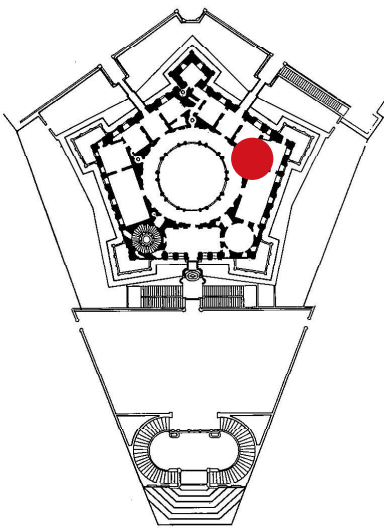


ヴィラ・ファルネーゼ



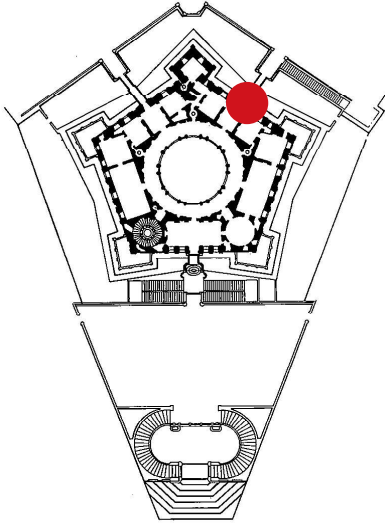
51

ヴィラ・ファルネーゼ

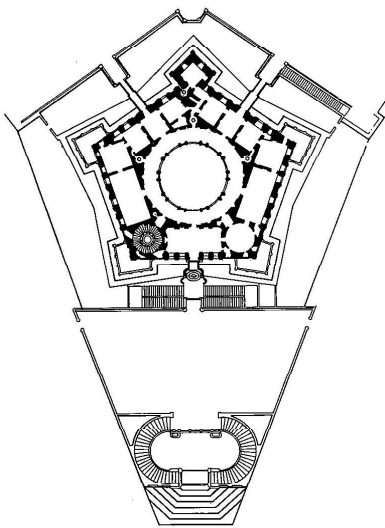


52

ヴィラ・ファルネーゼ



ヴィラ・ファルネーゼ

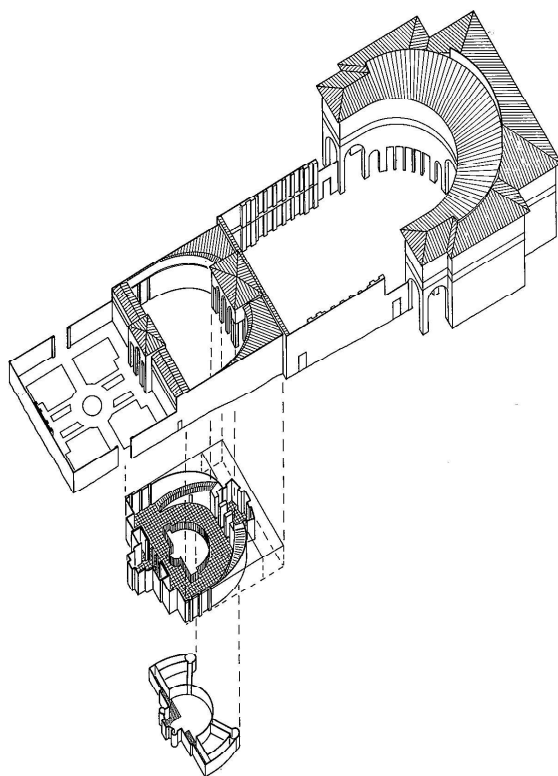


ヴィラ・ファルネーゼ

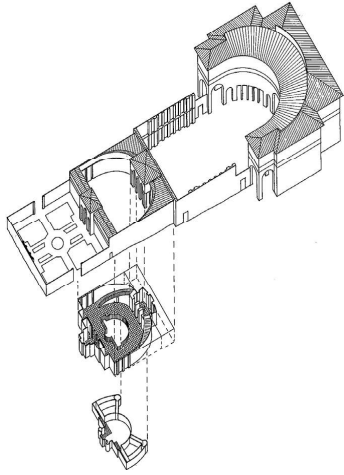
まとめ

- ・ 軸線から離脱することによって生じる**虚構のパースペクティブ**
- ・ **舞台装置**としての建築および眺望を見るため設定された**ビューポイント**
- ・ 螺旋階段や廊下の位置によって**空間体験の反芻**が生じる
- ・ **都市と庭園の結節点**としての建築空間

ヴィラ・ジュリア

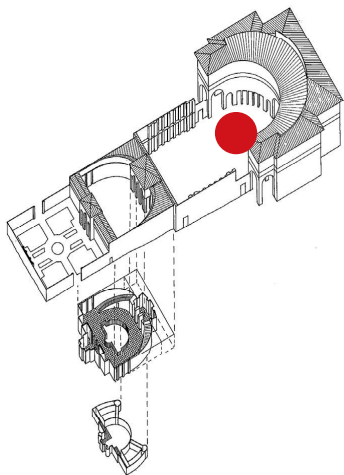


ヴィラ・ジュリア



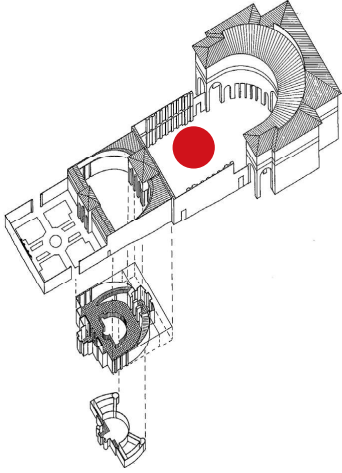
57

ヴィラ・ジュリア

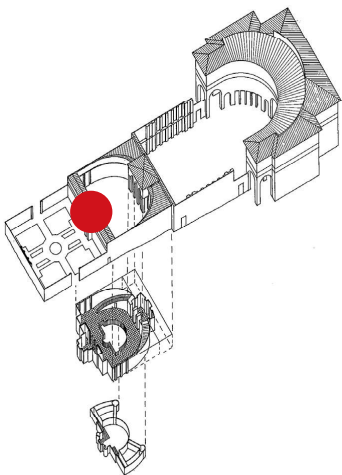


58

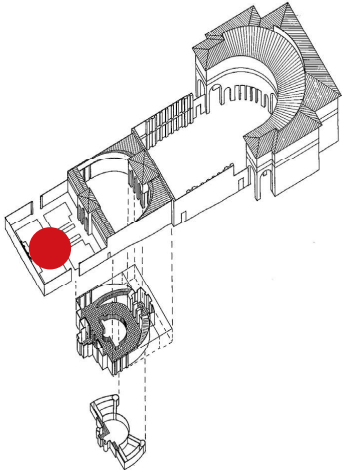
ヴィラ・ジュリア



ヴィラ・ジュリア

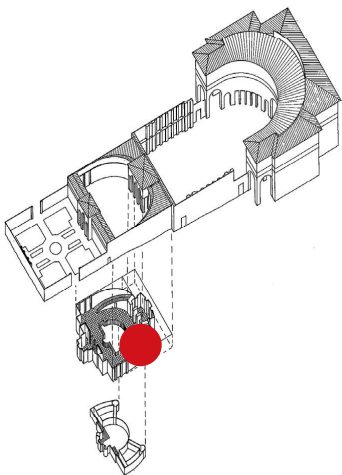


ヴィラ・ジュリア



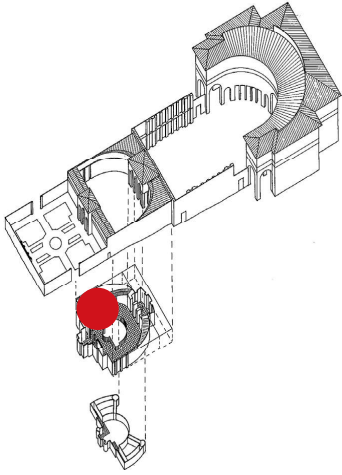
61

ヴィラ・ジュリア



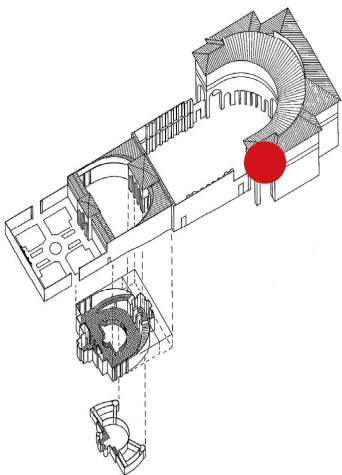
62

ヴィラ・ジュリア



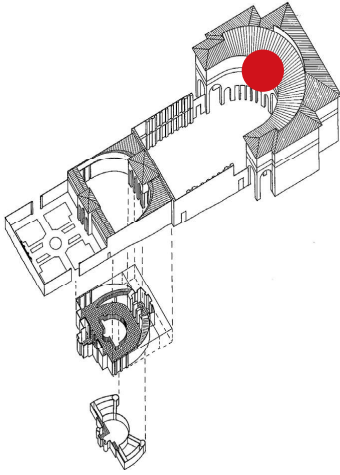
63

ヴィラ・ジュリア



64

ヴィラ・ジュリア



65

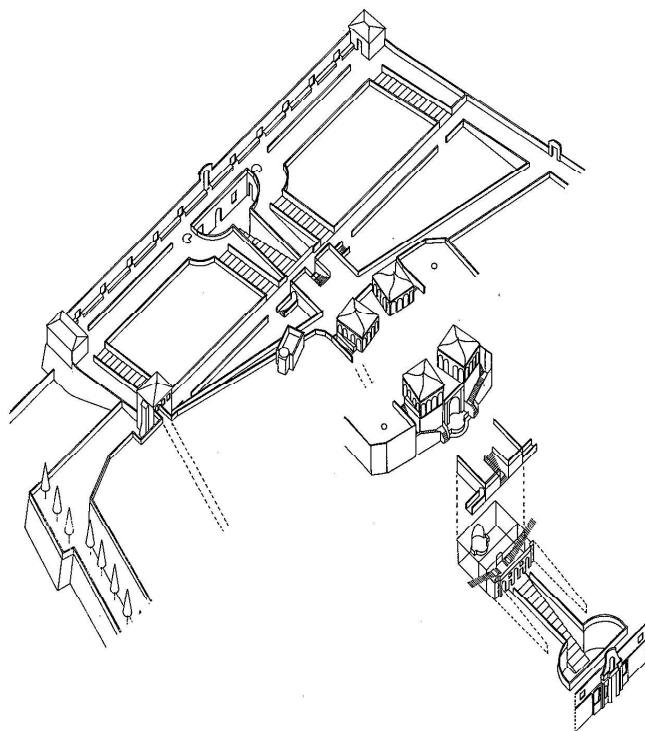
ヴィラ・ジュリア

まとめ

- ・ シークエンスの焦点となる 3 層の庭 (2 層目まで確認)
- ・ 空間の奥へ向かうに従い、**壁面の透過性が増長**する
- ・ より建築的に規定された空間であり、都市への視線の介入はみられない
- ・ ヴィラ全体を見渡す眺望など、パノラマの視線もみられない
- ・ **ランドスケープとの対話**の中でシークエンスを構成
- ・ 周辺環境が変化しているため、現在はもとあった空間構成のテーマの本質を観察することができない

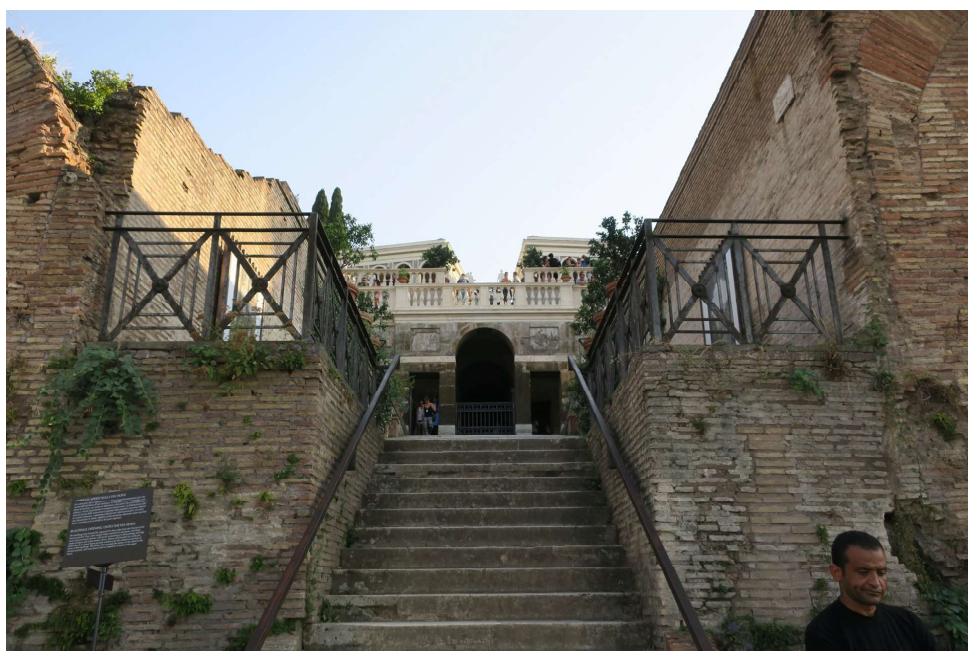
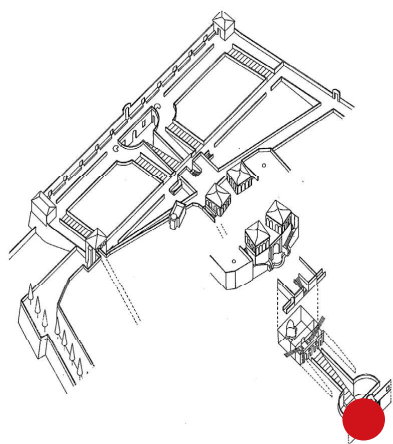
66

オルティ・ファルネジアーニ



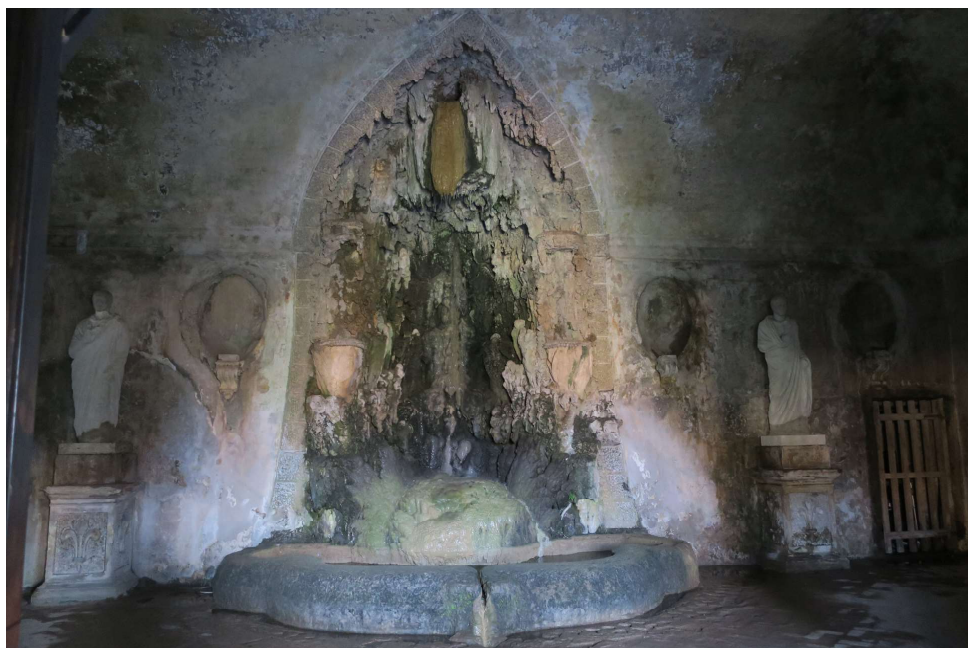
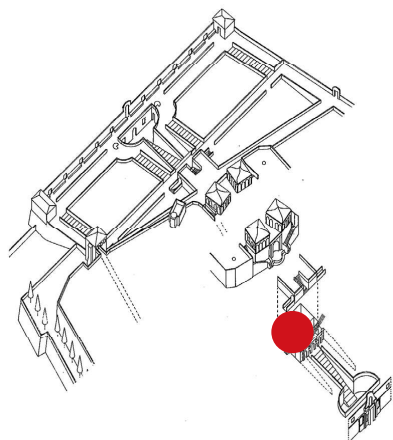
67

オルティ・ファルネジアーニ



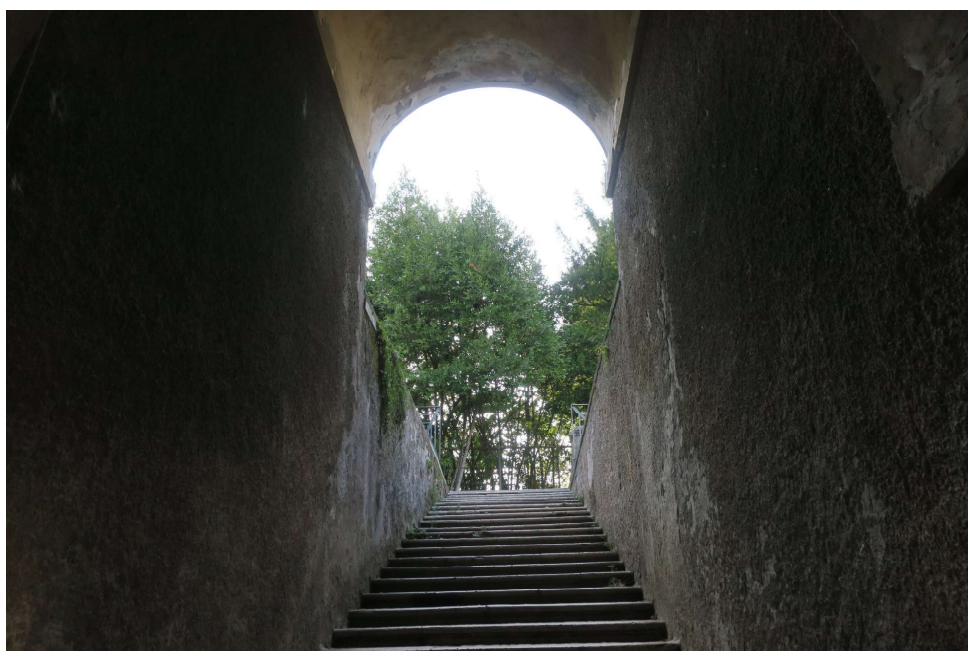
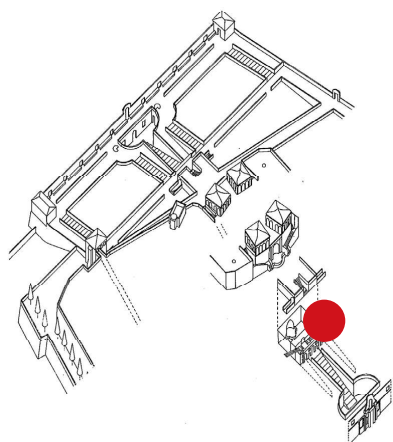
68

オルティ・ファルネジアーニ



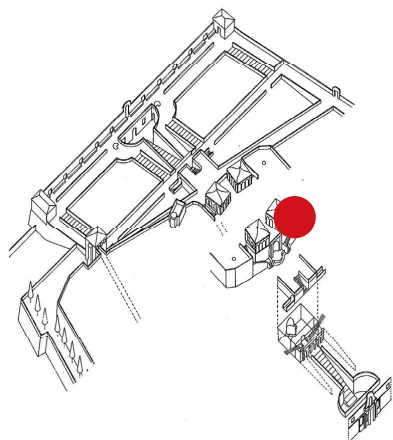
69

オルティ・ファルネジアーニ



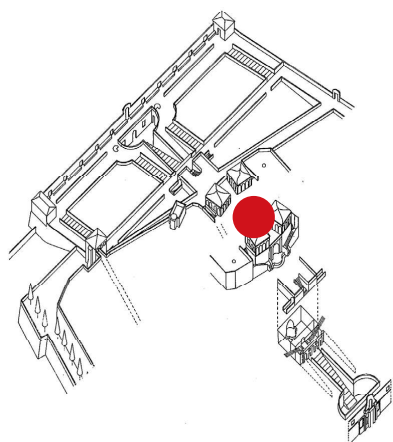
70

オルティ・ファルネジアーニ



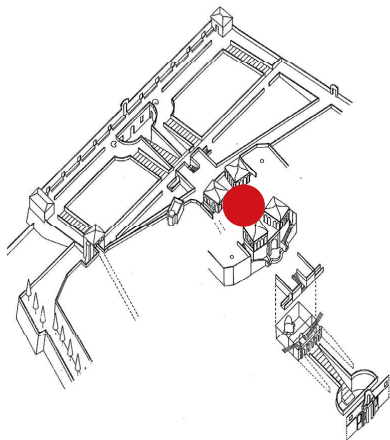
71

オルティ・ファルネジアーニ



72

オルティ・ファルネジアーニ



73

オルティ・ファルネジアーニ

まとめ

- ・ 主軸線の両側に分けられた同型のパヴィリオン（鳥小屋）
- ・ **地形に編み込まれた立体的なルート**を断片的に観察
(ジャルディーノ・セグレートや螺旋階段など、当初あった幾つかの重要なエレメントが失われているため、ルートの本来の構造は観察できない)
- ・ 廃墟を眺めるための連続テラス
- ・ 純粹な娯楽としての「**廃墟の庭園**」

74

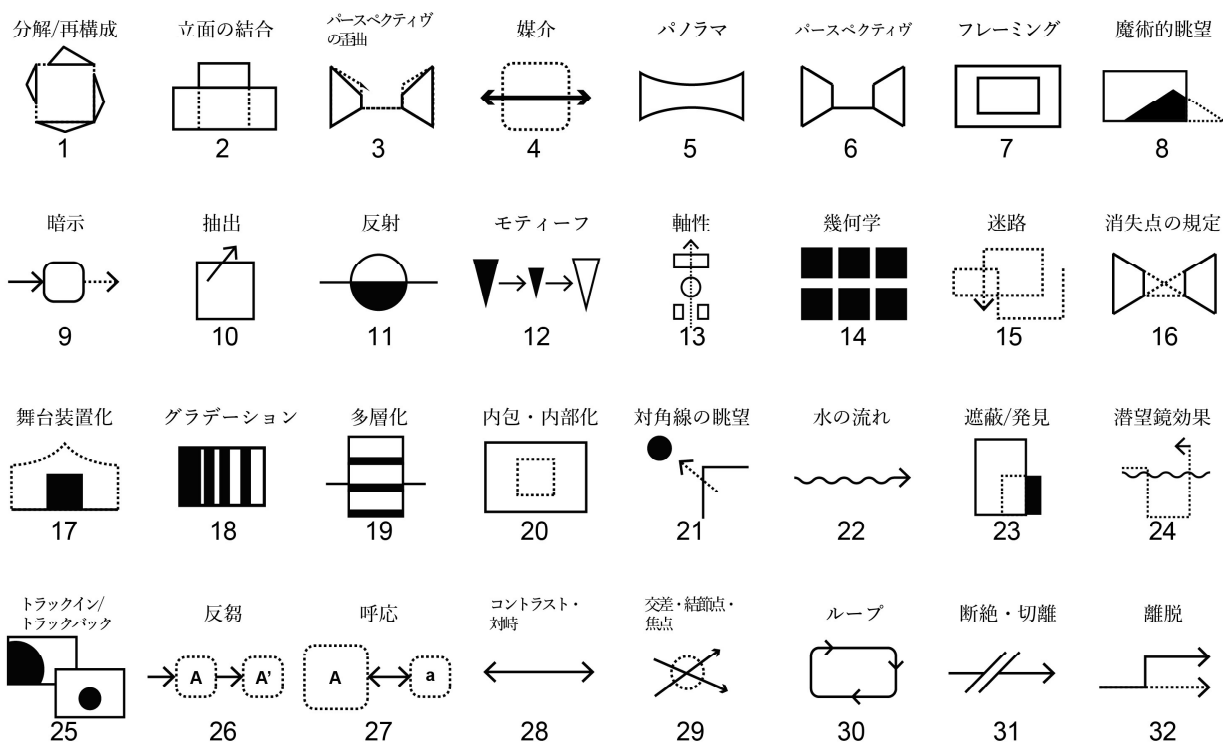
現地調査の成果と今後の展望

現地調査の成果

- ・ インテグラツィオーネ・シェニカのみられる4つのヴィラの現地調査を行い、今後の検証に必要なデータを持ち帰ることができた
- ・ **都市に対するヴィラの敷地条件**が、シークエンスに影響を与えている
- ・ **ヴィラ同士の視認性**はフィレンツェのヴィラにおいてより強固な関係性をみることができた
- ・ 4つのヴィラはそれぞれ、**異なるシークエンスの構造**をもっているため、**それぞれの構造に適した**記述法や視線解析実験の方法を検討する必要がある

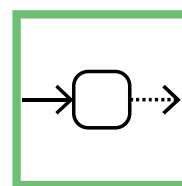
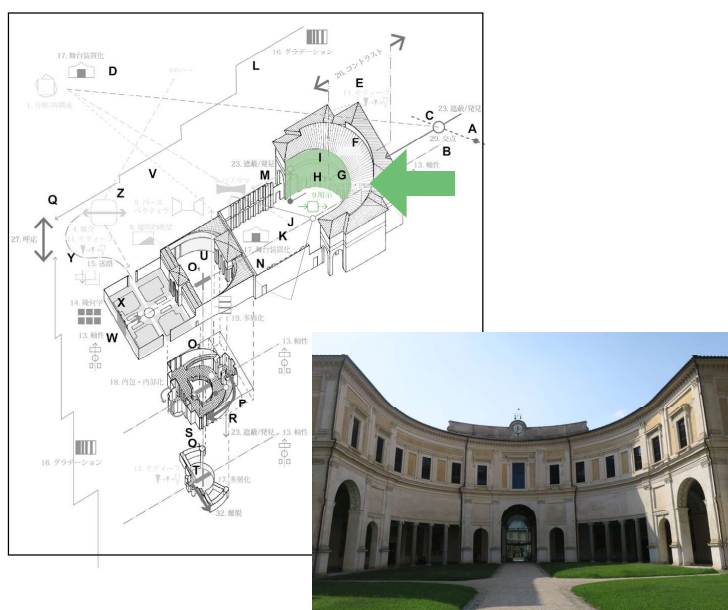
今後の展望

「風景の統合」32 のデザイン手法の検証



今後の展望

「風景の統合」32 のデザイン手法の検証



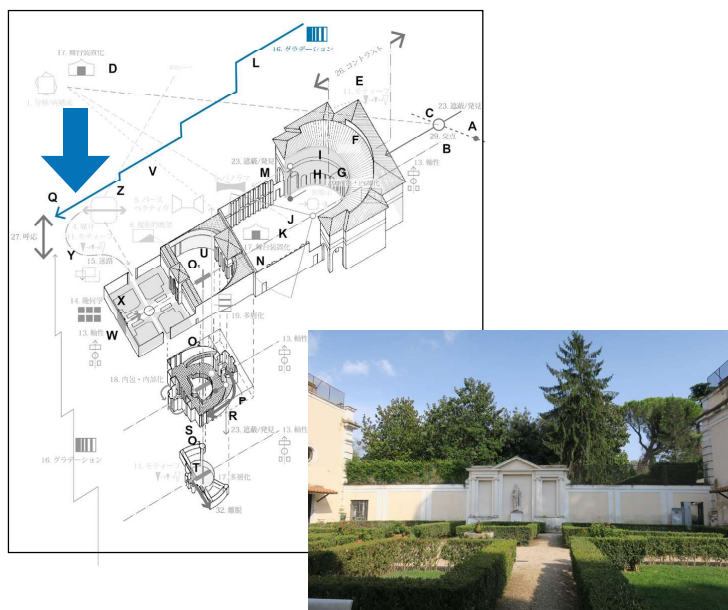
暗示

オブジェクトを取り込み、物語や歴史を連想させる

H「背面ファサードは内部空間の立面としての性格をもつ。その凹面の扱いはパンテオンの内部から直接引用されているからである。」

今後の展望

「風景の統合」32 のデザイン手法の検証



L「建物から丘の方向へ進むほど、スクリーンの開口は幅広くなり、エレメントのヴォリューム感と壁の高さは 遁滅していく。この透過性の増長は、石材から植込みへの穏やかな移り変わりという素材の変化にも現れる。」

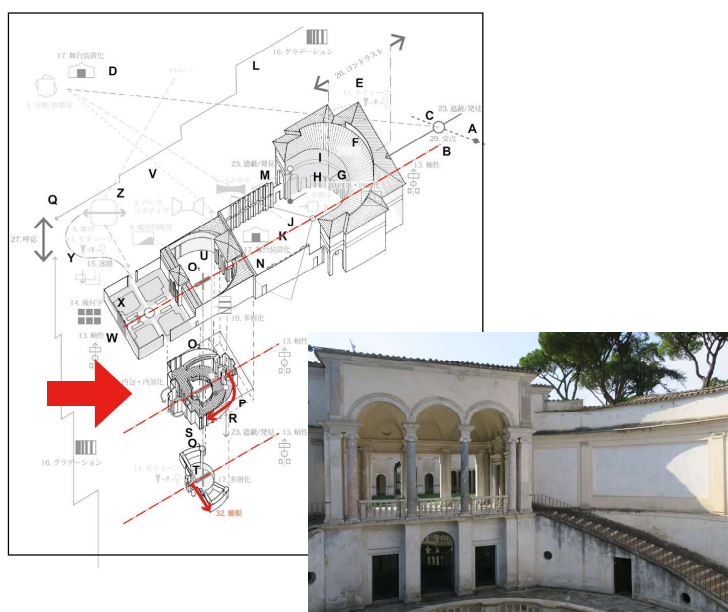


グラデーション

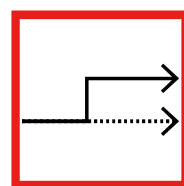
空間を進むにつれ、エレメントや空間のヴォリューム感が段階的に変化していく。ゆるやかな空間の推移の表現。

今後の展望

「風景の統合」32 のデザイン手法の検証



P「下方へ連続する個々の庭へは、主軸線からはずれて 階段で移動しなければ到達できない。このように主軸線とルートの間が生じる緊張があり…」

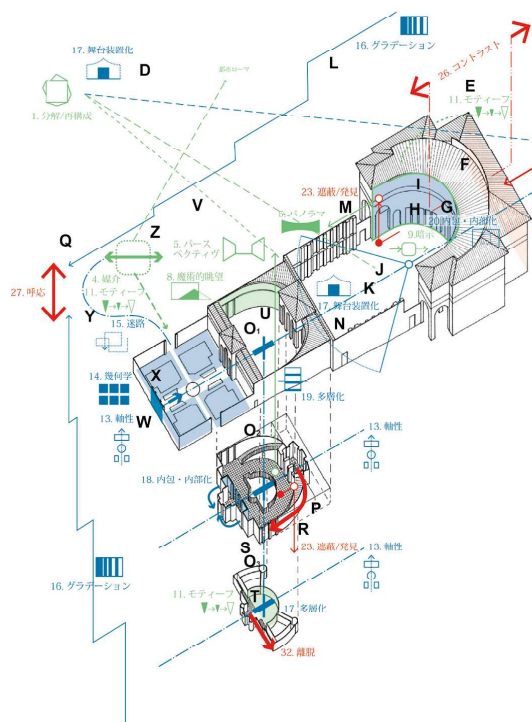


離脱

主軸線からはずれる脇道をつくる。強い軸線を和らげ単調なシーケンスに変化を与える。

今後の展望

「風景の統合」32のデザイン手法の検証



- A 船着き場から正門まではバーゴラにより導かれる
- B 軸線を振ることで谷に隠されるヴィラ
- C 2つの軸線（建物の主軸線をつくる谷線と、川に直交する線）の交点
- D ヴィラの平面計画に合わせて植樹された背景（ランドスケープ）
- E 正面と背面の対比
- F ファサードの両面をつなぐモチーフ
- G 内部空間の立面となる背面ファサード
- H バンテオンの内部から直接引用された内部ファサード
- I 建物と庭園の親密性を強調する中庭立面
- J 全体の付加的なエレメントとなる周囲のランドスケープ
- K 主軸線上に幾何学的に構成された建築エレメント
- L 透過性の増長（エレメントのヴォリューム感と壁の高さ、素材の変化）
- M 建物の2階から見渡す全体構成
- N 鑑賞者の移動による劇場空間の成立
- O 三層構成となる真中の庭
- P 下層の庭へ到達するための主軸線からの離脱
- Q 対応しあう平面と垂直の構成
- R ジャルディーノ・セグレート（秘密の庭園）
- S 空間体験の逆回
- T 寓意の庭
- U 空へとつながる内壁に描かれたランドスケープ
- V 下層から見上げる地平線までの眺望
- W ニッチによる軸線の終結
- X 一番奥の幾何学の庭
- Y 丘の上へつながるバルコニー（森）
- Z 都市ローマを見渡す視点場（丘上のエレメントによる眺望の間接的支配）